

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471000545	事業の開始年月日	平成13年10月1日	
		指定年月日	平成13年10月1日	
法人名	株式会社 コムロード			
事業所名	もえぎケアセンター戸塚			
所在地	( 244-00-185 ) 横浜市戸塚区下倉田町18-2			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成22年1月29日	評価結果 市町村受理日	平成22年4月22日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

●お花見、一泊旅行、秋祭り、クリスマスパーティーなど季節の定番行事を毎年行っており入居者・ご家族も楽しみにしている ●「くもん学習療法」を取り入れ小脳の活性化、認知症の進行防止に取り組んでいる ●階段や門扉・玄関ロビーに季節のレイアウトを施し季節感を醸し出している。また旬の食材を使用したメニューを提供し季節を感じてもらおう工夫をしている ●昔懐かしい年中行事をできる限り取り入れている

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成22年2月18日	評価機関 評価決定日	平成22年4月15日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<事業所の優れている点>  
 ◇全社挙げての一体運営  
 社長が運営理念の解説書まで作って周知に努めているのは入居者と一体感あるサービスである。ケーキ付きで開催する社長研修、毎週の執行会議など現場職員と上層部が接触する機会が多く理念、運営方針は広く理解されている。現場では一体感のあるサービスを入居者1人ひとりの特性に合せた対応ととらえて実行している。  
 ◇主婦の知恵を使った家庭ご飯  
 便秘予防も考えて野菜を豊富に使った煮物や焼き魚、和え物など昔からの献立を大切にしている。筑前煮のごぼうを長時間かけて煮るのも主婦の知恵である。一般家庭で食べる手作りの味、お惣菜が提供されている。

<事業所の工夫点>  
 ◇言葉イコール態度  
 「ていねいな言葉を使っていればいねいな態度になる」という考えを持って行動している。幼児語、友達言葉、馴れなれしい言葉は聞かれず職員の態度も自然である。誰にもわかりやすい内容で職員の意識付けを成功させている。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

もえぎケアセンター戸塚（桜の家）

事業所名	もえぎケアセンター戸塚
ユニット名	桜の家

V アウトカム項目	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)
○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)
○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)
○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)
○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)
○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)
○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)
○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)
○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)
○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)
○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)
○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。
○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

もえぎケアセンター戸塚（桜の家）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社長研修や毎月のミーティングを通して理念について学び確認しながら実践につなげている。	・利用者と一緒に感ある介護を唱えた理念、指針はパンフレットや相談室に掲示してある。法人社長自ら解説書を作って社長研修で職員に教え、職員も一体感を家庭の雰囲気と解釈して実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域密着型「秋祭り」を開催したり小学校や地域の行事に参加し交流に努めている。	・開設時に地域に丁寧に挨拶し、サービス内容の説明に努めてきた。 ・自治会に加入し小学校とは運動会参観や合唱の来訪、地域の人も来る秋祭りなどの交流のほか地域ボランティア協力の菜園もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の小規模多機能サービス利用者の家族へ認知症ケアのアドバイスをしている。また徘徊ネットワーク連絡会に参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告した内容につき意見を聞きサービスに生かせるようにしている。	・運営推進会議は家族2名、町内会長、地域NPO、地域包括支援センターが参加している。活動報告のほか参加者の意見も聞いている。意見に出た誤薬について改善事例がある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	戸塚区主催の連絡会があり情報・意見の交換を行っている。	・戸塚区の認知症高齢者グループホーム連絡会や横浜市主催の交換研修に参加し情報交換をしている。徘徊ネットワークに参加し戸塚区のケースワーカーと入居相談などを行っている。	

もえぎケアセンター戸塚（桜の家）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束しないケアを理解し実践している。階段門扉の施錠は家族等にも説明し理解を得ている。	・厚生労働省の「身体拘束ゼロへの手引き」を資料として利用している。掲示はないが職員会議で身体拘束をしないことを話している。階段柵の施錠は近くにいる職員が入居者の行動に応じて開閉している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が虐待について理解し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者が数名おりこの制度を実務として学ぶことができている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に管理者より十分な説明を行い理解・納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などにさりげなく様子をうかがい、不安・不満がないか耳を傾けている。意見は管理者に報告しミーティング等で話しあい改善に努めている。	・家族代表が運営推進会議で旅行にいけない人への対応を要望している。入居者との日常会話、家族面会時に出たことを職員会議で話合っている。トイレ掃除、散歩などについて対応改善例がある。	

もえぎケアセンター戸塚（桜の家）

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社長研修・社長懇談会やミーティングの時に要望や提案を聞いてくれる機会がある。	・日常や職員会議での意見は管理者が毎週の執行会議で社長に伝えている。社長研修を実施し、社長が直接職員から聞いている。壁の結露対策、IHヒーターの大型化の改善例がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の努力や実績は給与に反映されている。代表者は職員個人のやりたい事や将来設計・家庭環境などを面談にて把握し職場環境整備に役立てている。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画に沿って研修を実施している。代表者は各職員と面談しやりたい事や力量を把握し各職員をトレーニングしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者は管理者や職員にグループ会社間の交流の機会を作っている。また、ケアマネジャーの集まりや行政主催の会議にも積極的に参加させサービスの質の向上に役立てている。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境に慣れるまで声掛けを多くし家族からも情報を得るようにしている。			

もえぎケアセンター戸塚（桜の家）

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			自己評価	実施状況
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活の流れや様子・変化などを面会時に報告したりその際に要望・意見を聞くようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応 に努めている	相談内容と現状を聞きGH以外のサービスが必要であればそ ちらを勧める。当方が満室の 場合は他のGHの紹介や探し方 などを教えている。	
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にす る者同士の関係を築いている	できることはできるだけ自分 自身で行っていただき見守り の中介助したりお手伝いをお 願いすることで助けられ頼り にしていることを感じてもら えるようにしている。	
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆 を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に過ごしやすく会話が 弾むように補佐したり雰囲気 づくりに努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切 れないよう、支援に努めている	電話、年賀状、行事の案内状 など関係が途切れないように 支援している。	・旧友知人も高齢化し訪れなくな っている。遠出の外出は江ノ島など昔 行ったことのある場所を選んで懐か しがってもらおうようにしている。家 族と行き慣れた美容院や墓参りに行 く人もいる。

もえぎケアセンター戸塚（桜の家）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に炊事の手伝いをしたりレクリエーションを行うことで自然に助け合い声がかけ合えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先に面会に行ったり年賀状のやり取りをしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意向に沿えるよう努めている。困難な場合はスタッフ間で話し合ったり家族の協力を得て検討している。	・アセスメントから昔の話、好きなこと、食べ物などの話題を選び1人ひとりの思いを聞くようにしている。 ・職員はカンファレンスで1人ひとりの認知症の変化の状態について話し合い、好き嫌いが減る徴候なども把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族等から情報を得たりアセスメントの作成に協力してもらいその後のケアに役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の変化はケアカンファレンスで話し合って現状を把握し有する力を活かす支援をしている。		

もえぎケアセンター戸塚（桜の家）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活を観察・記録しケアカンファレンスで話し合い家族からの要望を取り入れながら作成している。	・日常の観察により、個人経過記録に問題点、ケア後の結果などに分けて記録している。 ・家族には6ヶ月ごとのカンファレンス前に要望書を書いてもらい、結果は面会時または電話で説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、ケアカンファレンスの議事録をもとに「個人経過記録」を作成し見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族だけでは介助が困難な通院介助や外出等できることは協力・支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方と菜園を楽しむ安全面は交番にパトロール強化をお願いし生活を楽しんでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通常は協力医で受診するが他に希望する医療機関があれば家族とともに受診している。適切に受けられるように情報交換等を支援している。	・協力医は徒歩数分の至近距離にあり入居前のかかりつけ医に行く人はいない。定期往診はないが具合が悪いときはすぐ往診してもらっている。歯科医往診は毎週ある。 ・通院情報は連絡帳に記入し職員で共有している。	



もえぎケアセンター戸塚（桜の家）

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医の先生・看護師に相談したり様子を見てもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族の協力を得病状の説明や退院の時期などを相談し無理のない方法で対応できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	変化が出てきた場合はケアカンファレンスで話し合い家族や医師と話し合い事業所でできることを十分に説明し支援方法を話し合うようにしている。	・看取りの事例がある。方針はまだないが、事例体験を通じて家族との協議、医師との連携などについて職員の具体的な理解は進んでいる。系列の他事業所も含めて方針作りを検討している。	・契約書では終末期は退所要件のひとつになっています。現在検討されている終末期対応の方針を明示することが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や救急救命の研修を受けたり入居者の病歴を把握し急変時に備え対応方法を医師に確認をするようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。	・防災訓練要領があり春に避難訓練（日中想定）、秋に消防署立会い救命訓練を各1回実施している。避難場所は隣の小学校とし家族にも説明してある。連絡網はキッチン近くに貼ってある。	

もえぎケアセンター戸塚（桜の家）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保について理解し個々に合った声掛けをしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理規程、プライバシーポリシーを相談室に掲示し職員採用時に服務心得と共に説明している。</li> <li>・言葉遣いイコール態度と考えていねいな言葉を使っている。</li> <li>・外部の第三者委員を含む苦情解決委員会がある。</li> </ul>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々のレベルに合わせ自己決定できるよう声掛けに工夫をしたり日常生活の中で思いや希望を表せるようにコミュニケーションをとりながら工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体力・体調を考え一人ひとりのペースを大切に生活できるようスタッフ間で相談しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには常に気を配りその人らしさが保てるように努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しい雰囲気づくりに努め食事作りから配膳・下膳とできることを行ってもらえるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者にその日の気分・体調に配慮しながら、配膳下膳などの手伝いをしてもらっている。</li> <li>・主婦経験のある職員が家庭らしいお惣菜を作っている。</li> <li>・花見や旅行での外食や2ヶ月に1回は釜飯、寿司などの出前がある。</li> </ul>	

もえぎケアセンター戸塚（桜の家）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせ食事量に注意し水分摂取量も気をつけ取りやすいように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きは毎食後行い訪問歯科の協力により定期的に口腔ケア。検診を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	リハビリパンツを使用しているも日中は排泄チェック表をもとに誘導しトイレでの排泄を支援している。	・排泄チェック表に記録し案内するタイミングの参考にしている。 ・野菜を多く取り入れた献立やヨーグルトで便秘予防をするほか一緒にトイレに入って腹部マッサージで介助もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝一番の飲料やおやつ時間のヨーグルトなど個々の体調をチェックしながら便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	自立入浴の方は本人の希望に合わせて、そうでない方は無理強いせず定期的な入浴ができるよう支援している。	・週2回入浴で曜日、時間は入居者の介助量と職員配分で決めている。シャワー浴も行う。浴槽には元の家族寄贈のリフトもある。 ・ゆず湯などで温泉気分にしたり、「お手伝いして」など言葉を変えて誘っている。	

もえぎケアセンター戸塚（桜の家）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や体力に合わせ就寝時間、休息する時間帯を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々が服用している薬を理解し処方が変わった時などは申し送りノートを使用し情報を共有し確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物や散歩、外食、外出、年間行事を通じて楽しみが持てるように工夫している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人で戸外に出られる方は希望に合わせ支援しているが介助を必要とする方は園庭で外気浴したり畑の野菜の収穫を楽しめるようにしている。	・庭に出てベンチでの外気浴や近くの川沿いの散策にはよく歩けない人も連れ出している。フラワーセンターなどに遠出することもある。ボランティアによる陶芸教室や指導で園芸・農芸に出る人もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できる方には、買い物に行った際は自分でお会計ができるように見守り支援をしている。		

もえぎケアセンター戸塚（桜の家）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの電話があった時は気兼ねなく話せるよう支援したり荷物が届いたときはお礼の電話ができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	さりげなく季節を感じるレイアウトと空調管理された明るい空間づくりを常に心がけている。	・南向きの食堂はクッションフロアの床暖房で明るく暖かい。廊下もエアコンがある。入居者同士の相性、性格、介助の程度から席を決めている。ソファは廊下にも配置しているので、歩行途中でも気軽に座ることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングと廊下にソファを置くことで話しやすい場所を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具はもちろん思い出の品物を飾るなど本人が落ち着ける居室になっている。	・居室は全室南向きの畳敷きで明るく暖かい。ベッドや布団、箆笥、家族写真、仏壇、画集、人形などの持込みがある。入居時に馴染みなものをお持ちくださいと話している。職員からの誕生日祝いの色紙もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要などころに手すりがあり安全に生活が送れるようにし危険が予測されるものは取り除くなどADLに応じて環境整備を工夫している。		

もえぎケアセンター戸塚（菊の家）

事業所名	もえぎケアセンター戸塚
ユニット名	菊の家

V アウトカム項目	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)
○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)
○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)
○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)
○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)
○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)
○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)
○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)
○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)
○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)
○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)
○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。
○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

もえぎケアセンター戸塚（菊の家）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の人や家族にもわかりやすい独自の理念を掲げ、管理者と職員は理念を念頭に置いたサービスに取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域密着型「秋祭り」を開催したり小学校や地域の行事に参加し交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の小規模多機能サービス利用者の家族へ認知症ケアのアドバイスをしている。また徘徊ネットワーク連絡会に参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告した内容につき意見を聞き職員全員に周知しサービスに生かせるようにしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	戸塚区主催の連絡会があり情報・意見の交換を行っている。		

もえぎケアセンター戸塚（菊の家）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束しないケアを理解し実践している。階段門扉の施錠は家族等にも説明し理解を得ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が虐待について理解し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者が数名おりこの制度を実務として学ぶことができる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に管理者より十分な説明を行い理解・納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望は自由に伝えられており管理者に報告されミーティング等で話し合い改善に努めている。		



もえぎケアセンター戸塚（菊の家）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社長研修・社長懇談会やミーティングの時に要望や提案を聞いてくれる機会がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の努力や実績は給与に反映されている。代表者は職員個人のやりたい事や将来設計・家庭環境などを面談にて把握し職場環境整備に役立っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画に沿って研修を実施している。代表者は各職員と面談しやりたい事や力量を把握し各職員をトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者は管理者や職員にグループ会社間の交流の機会を作っている。また、ケアマネジャーの集まりや行政主催の会議にも積極的に参加させサービスの質の向上に役立っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談後初回面接には本人の要望を聞き不安に思っていることを丁寧に受け止め信頼関係を築いている。		

もえぎケアセンター戸塚（菊の家）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用を開始する段階から家族の要望、不安に思っていることを受け止め安心していただけるよう対応を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で相談内容と現状を聞き必要であればGH以外のサービスを勧める。満室時は他のGHを紹介し探し方も教えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ご利用者と一体感ある介護サービスを創造する」という「理念・指針」を基本に職員が入居者より学び喜怒哀楽を共に分かち合う努力をしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加の行事を開催し家族を交えてレクレーションを行うなど共に過ごすことにより職員ともコミュニケーションを図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状を出したり家族とは定期的に連絡を取り状況をこまめに伝え面会の機会を増やすなど関係が途切れないよう支援に努めている。		

もえぎケアセンター戸塚（菊の家）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立する利用者がいないよう声掛けし誰もが仲良く楽しい関係を築けるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に連絡を取り転居先に面会に行ったりして関係が途切れない付き合いを大切にしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人が希望を伝えることは難しくなっているが本人本位に検討し安らぎのある生活空間を提供できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に利用者一人一人の生活歴を含めたアセスメントをしており介護サービスに生かしていくことが重要と考え実践している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態はケアカンファレンスで対応方法などを話し合い常に現状を把握している。		

もえぎケアセンター戸塚（菊の家）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族に記入していただく要望書、また面会時の意見をもとにケアカンファレンスで全職員の意見を聞き介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアカンファレンスで話し合った内容と日常生活個人記録などをもとに「個人経過記録」を記入しケアプランの見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況と必要に応じて家族の宿泊、通院介助など柔軟な支援とサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方による花壇・菜園の手入れ、交番による防犯パトロール、小中学校との体験学習交流を実施している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族希望のかかりつけ医とは連携を取り情報を共有し適切な医療を受けられるよう支援している。また近隣に提携かかりつけ医がいる。		

もえぎケアセンター戸塚（菊の家）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医の先生・看護師に相談したり様子を見てもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず見舞いに行き早期退院に向け情報交換・相談を行っている。また退院後の療養生活について指導を受けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族と話し合い本人の意思を尊重しかかりつけ医の協力の下ターミナルケアを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や救急救命の訓練を全員が受けた。利用者の緊急時におけるマニュアルを作成しすぐに対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。		

もえぎケアセンター戸塚（菊の家）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重しプライバシーを侵害することのないよう言葉かけや対応には注意を払って行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの思いや希望を聞き個々にわかりやすい説明をして自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の性格や身体面を日々様子観察しこれまでの生活環境を把握している。ご本人のペースで過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が好む服装をしていただいている。できない方には家族から情報を得て支援している。常に清潔を保てるよう努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下準備ができる方には包丁を使い職員見守りにて行っていただいている。食事は職員も一緒にとり会話を楽しみながらゆっくり召し上がっていただいている。		

もえぎケアセンター戸塚（菊の家）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要なカロリーがとれるようバランスのいい献立をたてて食事を提供している。食事以外に3度のお茶タイムを設けて1日の水分が確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを個別に付き添い実施している。自分で可能な方は見守り、できない方は介助している。また定期的に訪問歯科による口腔検診を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用しパターンを把握している。トイレで排泄できるよう誘導し腹圧や声掛けで失敗のないよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用している。食材は野菜を多く摂り毎日ヨーグルトを摂取していただいている。毎朝の体操や運動・散歩を積極的に行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	希望を聞くことは難しくなっているが一人ひとりの状況から入浴の希望を察しタイミングを見て気持ち良く入浴できるよう工夫している。		

もえぎケアセンター戸塚（菊の家）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の年齢や身体状況に合わせて休息していただいたり生活リズムを作って夜間は安心して良眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示に従い用法・用量を守っている。指示薬の効能についても職員が理解しており一人一人伝えて服用していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の「できること」を把握し得意分野を活かした役割を担ってもらい生きがいや楽しみにつながる支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、陶芸教室、園庭いじりなどできる限り戸外へ出る機会を多く持つよう支援している。外出の企画を立てドライブにも出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で管理することは難しいためホームでお預かりし本人の希望や家族の希望に応じて使えるよう支援している。		



もえぎケアセンター戸塚（菊の家）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書ける方は少なくなっているが職員がそばについて見守っている。また家族からの電話は自室でゆっくり話せるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の生活の中心がリビングルームであるためここで食事、体操、レクリエーションを行っている。光を採り入れ明るく落ち着いた空間になっている。季節に合わせた飾り付けをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下、リビング、庭、屋上にソファやベンチを用意しくつろぎの場所になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が今まで使用していた家具やベッド、棚、仏壇を置いている。使い慣れたものを見慣れたものを使用し本人が居心地の良い生活ができるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の残存能力を見極めながら掃除・食事の用意、片づけ洗濯ものたたみなど一緒に行って自立した生活が送れるよう支援している。		

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 もえぎケアセンター戸塚作成日 平成22年 4月 15日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束をしないケアを実践しているが具体的なマニュアルがない	身体拘束のないケアについて正しい知識を持ち実践していく	身体拘束の禁止事項や内容などをマニュアル化し研修する	12ヶ月
2	33	重度化した場合や終末期には現在個人に合わせた対応をしているが事業所として指針がない	重度化や終末期に向けた方針を共有する	重度化や終末期に向けた方針を共有する	12ヶ月
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。